

# ビワ生育情報

千葉県  
平成23年10月号

## 平成23年7～9月の気象

平成23年7～9月の気象は表1に示した。7月の平均気温は第5及び第6半旬を除く4半旬で平年を上回り、月平均は25.7℃で平年より1.4℃高く、前年より1.0℃低かった。降水量は第4半旬を除く5半旬で平年を下回り、月合計は100mmで平年より93mm(48%)、前年より106mm(51%)少なかった。日照時間は第6半旬を除く5半旬で平年を上回り、月合計が193時間で、平年より18時間(10%)多く、前年より32時間(14%)少なかった。本年の関東地方の梅雨明けは、7月9日で平年より12日、前年より8日早かった。

8月の平均気温は平年に比べ、第6半旬は並、第2、第3半旬は1.3℃高く、そのほかの3半旬は0.3～1.1℃低く推移し、月平均は25.9℃で平年より0.1℃高く、前年より2.0℃低かった。降水量は第5半旬を除く5半旬で平年を下回り、月合計は57mmで平年より97mm(63%)少なく、前年より10mm(21%)多かった。日照時間は第4及び第5半旬を除く4旬で平年を上回り、月合計は234時間で平年より14時間(6%)多く、前年より41時間(15%)少なかった。

9月の平均気温は平年に比べ、第1～3半旬は1.0～2.6℃高く、第4～6半旬は0.2～1.3℃低く推移し、月平均は24.1℃で平年より1.4℃高く、前年より0.5℃低かった。第1～3半旬までの期間の平均気温は26.0℃、第4～6半旬までの期間の平均気温は20.5℃であり、5.5℃の気温差であった。降水量は第4及び第5半旬を除く4半旬で平年を下回り、月合計は148mmで平年より99mm(40%)、前年より120mm(45%)少なかった。日照時間は第1半旬を除く5半旬で平年を上回り、月合計は207時間で平年より61時間(42%)、前年より9時間(5%)多かった。

表1 平成23年7～9月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	25.3	22.5	25.6	28	36	35	28	21	17
	2	25.3	23.2	24.9	29	45	73	34	23	19
	3	26.4	24.3	26.3	0	38	23	63	25	27
	4	26.5	24.6	27.5	33	24	0	29	28	59
	5	22.3	25.0	28.4	9	26	0	34	33	56
	6	24.6	25.7	27.2	2	25	77	6	44	46
月平均/計		25.7	24.3	26.7	100	193	206	193	175	225
8	1	25.1	25.7	28.6	16	27	0	39	37	43
	2	27.2	25.9	26.8	0	26	45	49	37	30
	3	27.4	26.1	27.6	0	25	2	51	36	30
	4	25.6	25.9	28.4	10	23	0	33	35	46
	5	24.7	25.8	27.7	29	23	0	20	35	55
	6	25.5	25.5	28.2	3	31	0	41	40	71
月平均/計		25.9	25.8	27.9	57	154	47	234	220	275
9	1	26.6	24.8	28.2	8	26	0	18	31	52
	2	25.2	24.2	26.4	1	45	34	50	28	29
	3	26.1	23.5	26.6	0	30	2	52	25	40
	4	21.1	22.4	23.8	87	40	27	39	22	35
	5	21.1	21.3	22.4	49	48	52	24	20	31
	6	19.4	20.3	20.2	5	58	154	24	20	11
月平均/計		24.1	22.7	24.6	148	247	268	207	146	198

## 台風による被害を受けた樹の管理

10月1日現在、5個の台風が日本列島に上陸または接近した。千葉県のパワ産地では、大きな被害はなかったようだが、倒伏した樹は起こし、損傷の程度に応じて枝を切りつめる。

起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病害虫雑草防除指針に従って防除する。

### 11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

#### 摘房・摘蕾

11月から12月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では1樹の全梢数の50%の枝に花房を残す。発育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝(花房の枝)の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は蕾の充実を促すので摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmの時に摘蕾するのが最も有効で、開花期の延長を図ることができる。寒害を受けやすい園ではこの時期を逃さないように早めに摘蕾を行う。

#### アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシは緑色大形のアブラムシで、ビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので短期間のうちに、甚だしい落葉を見ることがある。また排泄物はすす病を誘発する。

防除は発生状態を見て随時行うが、発生初期に行うのが効果的である。11月はナシなどから移ってきて繁殖期に入るので、この時期の防除は春の発生を抑えるために有効である。防除に当たっては、農作物病害虫雑草防除指針に従って行う。

## 樹及び花房の発育

花房の発現期は表2に示した。「楠」が9月18日で平年より4日、前年より2日遅かった。「大房」が9月21日で平年より2日、前年より16日遅かった。「田中」が9月19日で平年より4日、前年より10日遅かった。花芽分化が行われていると考えられる7月から8月の平均気温が平年並みであったため、花房の発現も平年並みであったと考えられる。花芽数は平年に比べて多く、今後の摘房・摘蕾による花房数の調節が重要である。

夏枝及び秋枝の発生は平年よりやや多く、樹の生育も順調である。

表2 花房発現期(暖地園芸研究所)

品 種	本年 (月.日)	平年 (月.日)	前年 (月.日)
楠	9.18	9.14	9.16
大 房	9.21	9.19	9. 5
田 中	9.19	9.15	9. 9

平年：1983年～2010年の28年間の平均

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産者向け情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>